

教育で子どもたちの未来を拓く ラオス教員養成校の整備に資金協力



「初等教育における算数学習改善プロジェクト」で制作に協力した教科書で学ぶラオスの子どもたち。

2020年9月、JICAはラオスの「教員養成校改善計画」に対し19億1200万円を限度として無償資金協力を実施することを発表した。これは特に所得水準の低い国へ行う返済義務のないものだ。ラオスでは初等教育における教育の質の改善や、中等教育における就学率の向上が課題となっており、ラオス政府は教員養成の強化等を通じてこれらの課題に取り組んでいる。

現在、ラオス国内に8校ある教員養成校とその付属校では、施設の老朽化や教室・機材の不足等により十分な教員教育がなされていない。今回の資金協力では、付属校の建て替えや教育用機材の整備を行い、教員養成校の機能を強化することによって、ラオスの基礎教育の質向上に貢献する。

ニュース深掘り! 教材開発・教員への支援で教育の質改善に貢献

ラオスでは児童の算数の学習達成度が著しく低く、その原因の一つとして、教材が正確性に欠けており、適切な指導順序・教育方法となっていないことが挙げられます。JICAは「初等教育における算数学習改善プロジェクト」を実施し、日本人専門家の指導のもと算数の教科書の改訂に取り組んでいます。日本の教材と同じようにイラストをたくさん使い、ラオスの子どもたちが興味を持って学び、内容を理解しやすくする工夫を凝らしています。

また、教育の質改善の鍵となるのは、教員の育成です。教科書に沿って、新しい教育方法で分かりやすく教えられるよう、教員の研修にも力を入れています。また、教員養成校の教員や学生の算数教科知識が向上するよう、教員養成校のカリキュラムの改訂と教材開発にも取り組んでいます。

今回の協力が一部の地域だけでなく、国内すべての教員養成校を対象にしているのは、「地域間格差をこれ以上広げたくない」というラオス政府の意向がありました。子どもたちが自らの暮らしや社会を改善していけるようになるには、すべての子どもたちが主体的に学ぶことができる環境が必要です。自らの手で未来を切り拓くことのできる次世代を育てる教育の実現に向け、これからも協力をしていきたいと考えています。

人間開発部
基礎教育グループ
基礎教育第一チーム
徳田由美さん
とくだ・ゆみ

小学校教員、UNESCO中央アジア地域事務所等を経て2006年にJICAに入構。人間開発部、アフリカ部、ケニア事務所等を経て16年から現職。おもにアジア・中東地域の基礎教育協力に従事している。



JICA HEADLINE NEWS

10月 9日 | ▶ **アルバニア 技術協力プロジェクト討議議事録に署名**

国立公園における生態系に基づく管理に関わる能力の強化を目指す。

10月 9日 | ▶ **ベトナム 太陽光発電事業への融資契約に調印**

JICAが出資する信託基金“LEAP”を通じ、ベトナム最大級の太陽光発電所に融資する。

10月 1日 | ▶ **日本 国際大学とJICA青年海外協力隊事務局が覚書を交わす**

SDGs達成のための課題解決を担う国際的な人材の育成に取り組む。



◀◀ JICAのニュース&トピックスをもっと読みたい方はアクセス!
<https://www.jica.go.jp/information/index.html>